

[問題点]

1. ファイルを添付すると、受信側で `winmail.dat` というファイルとなって開けないことがある
2. ファイルを添付したのに、受信側で表示されないことがある
3. ファイルを添付していないのに、受信側で `winmail.dat` という添付ファイルが現れることがある
4. Outlook を使用して受信すると上記各問題が発生しないため、送信者が問題の発生に気づかない

[原因]

Outlook では、添付ファイルの送信に独自の TNEF(Transport Neutral Encapsulation Format)という方法が用いられており、Outlook のデータと添付ファイルがカプセル化されて `winmail.dat` というファイル名で送られます。

受信側が Outlook なら、この `winmail.dat` をデコード (読み替え) して、Outlook 固有のさまざまな機能やプロパティを正しく受信することが可能になります。

一方、TNEF を認識できないメールソフトで受信した場合には、添付ファイルが `winmail.dat` に置き換わったように見えます。Outlook Express や Windows Live Mail は、`winmail.dat` を解読できないので、その添付ファイルを無かったものとしてしまいクリップマーク (添付ファイルの存在を通知するもの) もつきません。下記の[解決方法]に示す方法を除き普通には `winmail.dat` を開くことはできません。

添付ファイルがなくても TNEF が使用されることがあるし、添付するファイルの内容や、宛先、受信したメールをテンプレートとして使用した場合の元のメールの設定などによって、TNEF が使われるかどうかが決まるので、問題が発生したりしなかったりします。

この問題は HTML 形式かテキスト形式かといったメッセージ形式の選択では解決せず、TNEF の機能を停止しない限り解決しない点に注意が必要です。

[解決方法]

1. 送信側での回避方法 (Outlook をお使いの方は、この設定をするようお勧めします)
Outlook 2016/2013/2010/2007 の場合 ;
下記の URL にある方法で、TNEF を使用しないように設定する (次頁の補足参照のこと)。
<http://support.microsoft.com/kb/958012/ja>
<https://blogs.technet.microsoft.com/outlooksupportjp/2014/06/06/outlook/>
Outlook 2003 の場合 ; 複雑なので、下記 URL をご覧ください。
<http://outlooklab.wordpress.com/2007/06/23/outlook-20032007-でメールを送信すると添付ファイルが消えた/>
2. 受信側での対処方法
方法 1 : メールに添付された `winmail.dat` ファイルを保存して、下記のフリーソフトで開く。
Windows : Winmail Opener (http://www.eolsoft.com/download/winmail_opener.exe)
Mac : TNEF's Enough (<http://www.joshjacob.com/mac-development/tnef.php>)
方法 2 : `winmail.dat` 添付ファイル付メール全体を `eml` ファイルとして保存し、Decode ソフトツール DecodeWinMail.vbs (鎌倉淡青会 HP の TOPICS にあるデコードスクリプト zip ファイルを解凍して作成) を使って開く。
3. 送りたいファイルを、Dropbox、OneDrive といったクラウドストレージに置いて、メールではリンク情報のみを知らせる。


(補足) Outlook 2010/2007 で TNEF を使用しない設定の作業に関する注意

<http://support.microsoft.com/kb/958012/ja> では、Fixit と称するボタンから専用ソフトをインストールして設定する方法と「自分で解決する」と称するレジストリーを変更する方法が述べられている。

前者はメールでファイルの所在が通知されソフトをダウンロードし解凍してインストールした後に指定するという手間がかかる上、うまく行かないことがある。

後者は容易かつ確実であるが、その説明が不十分なので、下記に追加朱記したところに従うことを勧める。なお、素人がレジストリー変更するのは危険との説が過去にあったが、今では安全度が改善されており、本件は Outlook に限った設定変更操作なので、何ら懸念なく作業できる。

DisableTNEF レジストリ エントリを追加します。これを行うには、以下の手順を実行します。

1. Outlook 2007 を終了します。
2. レジストリ エディターを起動します。
 - Windows 10 では、スタートメニューのすべてのアプリの中にある Windows システムツールを開き、「ファイル名を指定して実行」を選択します。または「Alt キーの左にある Windows キー + R」のショートカットで開くほうが早いです。名前(O)のボックスに「regedit」と入力し、OK ボタンをクリックします。
 - Windows Vista および Windows7 では、[スタート] ボタンをクリックし、[検索の開始] ボックスに「regedit」と入力し、Enter キーを押します。
管理者のパスワードを要求するダイアログ ボックスが表示された場合はパスワードを入力して [OK] をクリックし、確認を要求するダイアログ ボックスが表示された場合は [続行] をクリックします。
3. 次のレジストリ サブキーを見つけてクリックします。階層表示されている場合、順に開いていき、最後に Preferences をクリックします。

HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Microsoft¥Office¥xx.0¥Outlook¥Preferences

注 : xx の箇所は Outlook のバージョンによって以下の数字とする必要があります。

Outlook 2016 → 16

Outlook 2013 → 15

Outlook 2010 → 14

Outlook 2007 → 12

4. [編集] メニューの [新規] をポイントし、[DWORD (32 ビット) 値] または [DWORD (64 ビット) 値] をクリックします (32 ビットか 64 ビットか、機種に応じて選びます。普通は 32 ビットです)。
5. 反転表示されている [新しい値] を右クリックして [名前の変更] をクリックして「DisableTNEF」と入力し、Enter キーを押します。
6. [DisableTNEF] を右クリックし、[修正] をクリックします。
7. [値のデータ] ボックスに「1」と入力し、[OK] をクリックします。
8. 右上の×をクリックしてレジストリ エディターを終了します。
9. コンピューターを再起動します。もう一度レジストリ エディターを起動して、上記変更を確認します。これで、TNEF を使用しない設定になりました。

以上